



にじのはし幼稚園 園だより



令和 4 年 2 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

二十四節気最後の最後の大寒となり、厳しい寒さが続いています。にじのはし幼稚園の園児たちは、元気に登園し、意欲的に遊びや生活に取り組んでいます。霜柱や氷を発見し、手で触り冷たさを感じ、間近で不思議そうに眺めます。霜柱を踏み、ザクザクした音を耳にしながら、靴底からの感触を楽しみます。年長児は、白い息を吐きながら、手作り凧を持って校庭を走ります。この時期ならではの自然や遊びに、心躍らせながら全身で関わっています。ご家庭で、「早寝・早起き・朝ごはん」で、登園前に心と体を目覚めさせ、薄着の実践にご協力くださっている保護者の皆様のお陰です。保護者の方と連携して子どもたちを育むことができ、園として大変うれしく思っています。

子どもたちが、自ら「人・もの・こと」に主体的に関わり、様々に試したり、心と体を動かしながら学びを深めていくには、“心と体の元気”が不可欠です。そのために重要なのは『アタッチメント（愛着・愛情）』の形成です。「不安で泣いている時に抱いてなだめてもらう」「お腹が空いた時、食べ物をもたらす」「うれしい時、悲しい時、気持ちを理解し共感してもらう」など、本能による身体的・精神的な変化を無条件で受け入れてもらうことで、乳児期から形成されます。

親や保育者など特定の養育者との間に築かれ、身体面・精神面に大きな影響を与え、年齢に応じたアタッチメントが安定して形成されることで、脳が正常に発達します。また、ストレス環境に置かれた時、特定の人に対して愛着行動を取り、受け入れてもらうことで、自分にとって安心・信頼できる場所＝安心の基地であることを認識し、アタッチメントが形成されます。やがて「他者は自分を確実に保護してくれる」「自分は確実に愛してもらえる」という基本的信頼感を得て、他者への信頼感や社会への適応につながります。ネガティブ感情を経験しても、安心の基地がある子どもは、他者へ能動的にシグナルを送り、親密性を深め、感情を立て直していきます。そのことが、“自分には出来る”という自信となり、やがて自律性・自己効力感・心のたくましさにつながります。アタッチメントと心の発達は大きく関係しています。

今年度は残り2か月になりましたが、これからも、子どもたちの身体・心・脳の健やかな成長のために、園と家庭が協力し、安心感の輪を広げていきましょう。

